

## 礦物學上の觀察：雜録

著者	篠本，二郎
雑誌名	龍南會雜誌
巻	27
ページ	28 - 29
発行年	1894-05-25
その他の言語のタイトル	鉱物学上の觀察：雜録
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/4400">http://hdl.handle.net/2298/4400</a>

型ヲ加ヘタルコトナキモノニ似タリ待ツコト多時九時汽車進行ヲ始ム。汽車ノ前後軌道ヲ脱シ鐵路ノ破壞シタル上ヲ通過セシトハ一身悉ク粟ヲ生ジタリキ

(未完)

## 礦物學上の觀察

講師 篠本二郎

### (一) 梅花石

梅花石は福岡縣企救郡白野江村字青濱の斷崖中より出づ。褐紫色にして石質堅硬あり、花紋あり白梅花の如し。瓣葉共に備り、狀色殆んど眞に逼る、名けて梅花石或は梅花石と曰ふ。或人云く、昔管公の左遷に方り、公の愛する所の梅花、公を慕ひて京より西飛したる者化して石よなると、訛傳固より信するに足らずと雖も、未だ此石に就て講究せし者あらず。或人曰く雲母斑石ありと、此說稍々眞に近しと雖も、亦未だ保すべからず。唯天然の奇石たるを以て、夙に世人の愛玩する所とされり。然れども需用の甚だ少あくして、其價割合に貴からず、唯置物或は硯に用ゐたるを見るのみ。是故に供給を減殺し販路を狹縮せり。加ふるに之を巖石中より掘採するの困難にして、運般の不便あるは、自然損益に關係を及ぼし、僅かに一二の工人と、馬關市内に二三の販賣者あるのみ。

余先年該地に遊び、其新鮮にまで完全ある標品數塊を得、始めて梅花の如き形を爲せるものは、即ち中世紀の動物海百合(*Enerinus Iliformis*)の化石として、其褐紫色を呈する石は輝綠凝灰岩(Diabase Tuff or Schalestein)なることを明にし、決して前に記せる如き神聖なる石屬に非ざることを曉れり。

### (二) 石神山の岩石に就て

余は去る日曜日友人幸中川の兩氏と、學生二名と金峰山に遊び、途に石神山を過ぎて此に産する岩

石を得、其性質を明にせり。

石神山は肥後國飽田郡金峰山に隣り、全山黝色の火山岩より成る。略ぼ圓錐形をなせる小山にして、此に石切場の設あり、盛に石材を切出せり。此質堅硬亦運搬に便あるを以て、熊本市を始め縣内各所に於て、多く之を建築材及び墓碑等に使用せるを見る。余は未だ石神山四近に散在せる諸山の岩石の性質を實驗せざれども、恐く石神山所産の岩石と異なる所あかるべし。

今該石切場に現はるゝ岩石の状態を察するに、其劈開頗る顯著よしして、岩石は鉛直に柱狀をなきて併立す、以て其岩齧より凝結する時に當りて、熱の冷却平等ありしおとを知るに足る。又其石理も大に發達して石工の之を切採するの勞を除くに足せり。然れども現に切り取れるものゝ中には、石理多くして爲めに岩石は略ぼ層狀を爲え、其厚さ一寸内外の板石を堆疊せし如き外觀を呈し、良材に供し難きものあり。斯の如く所により石理の發達大に相違するは、當初之を受けし壓力の大小、或る事情により各々場所を異にして作用したるに由るなるべし。而して此に産する岩石を薄片と云ふ、顯微鏡下に照し見れば、斜長石の斑晶或は潜晶質石基中に交はり、殆んど無色ある輝石及び微小の磁鉄粒を混じ、正に輝石富士岩なることを知れり。又其一部は角閃石を混じ角閃富士岩と稱すべきものあり。共に其長石の結晶中に外邊に併列せる夥多の磁石微粒、或は玻璃質包体を包有するものあり。

## クリミヤ戦争始末 (續)

廣田直三郎

クリミヤ本戦

クリミヤは一大半島にして、黒海及アゾフ海の間に挟り、ペレコプの地峽を以て大陸に連る、其北境